

広袴便り

吉川俊雄 書
(町内会長)

'03夏
創刊号

東京都町田市広袴町内会

発行責任者

会長 吉川俊雄

〒195-0052
東京都町田市広袴2-7-19

〈電話・FAX〉
042-735-5464

広報部長 西川文二

〒195-0052
東京都町田市広袴3-15-9

編集長 中村一行

〒195-0052
東京都町田市広袴町522

〈電話・FAX〉
042-734-0451(西川)
042-734-9708(中村)

「創刊に寄せて」

「広袴便り」創刊に当たり、広報部は寺田市長にインタビューを申し込み、5月21日にお話を承る機会を得ました。

編集長 イギリスのコミュニティーなどでは地域の新聞が発行されることが多く、地域社会の発展に大変役立つと聞きます。一方的な行政の通達であるとか、回覧方式に比べ、各家庭でじっくり読め、保存が可能であるということがその利点であり、そういう意味で「広袴便り」というコミュニティー新聞発行の意義は大いにあるものと考えております。市長はこういう動



寺田市長

寺田和雄・町田市長を囲んで

きをどのように評価されますでしょうか？
市長 大賛成ですね。最近、地方分権という発想が進んでいる点から鑑みても、小さな住民単位のコミュニティーがあるのは素晴らしいので、そこで情報やニュースの開示が行われるだけでなく、住民の一人一人がそれぞれの意見を発表し、また他人の意見を聞く、更に地域の文化・歴史の伝承をしていくという意味でも大変に意義のあることだと思えます。言われるように回覧方式だとゆっくり読めず、見るだけで結局は残らない事になるのですが、新聞形式をとるということは、少し費用が掛かるとしても手元に残るという効果があり、それが地域の歴史にもつながるのだと思います。

編集長 市長は広袴地域にご来臨の折、よく「柳田国男が広袴を訪れた」ということをスピーチの中で引用されますが、これは柳田国男のどの著作に載っているお話でしょうか？

市長 私の著書（わが山旅 まちだ文学散歩―町田ジャーナル社刊）の中にも触れたのですが、「ここでその本を持ち出し、その箇所を私たち全員にコピーして渡して下

さる。一当時成城に住んでいた柳田国男は広袴という地名が変わっていることに興味を持ち、昭和18年11月20日に広袴を訪れ、「民間伝承」という雑誌にそのことを書いています。広袴は東から北に向かつて広がっていて、どうしてそこに部落ができなのか、飲料水のためなのかも知れぬとか書いています。またその時の面白いエピソードとして、巡査がお不動様の辺りまで追いかけてきた、いろいろの村の事情など聞いて歩くので、スパイと間違われたなどということも書いてあります。



インタビューに同席した会員が市長と市緑政部長を囲んで

編集長 広袴地域についての特別な印象とか思い入れがあればお聞かせください。
市長 私が市長になる前に開発部長をしていた頃、広袴と真光寺の一部が市街化区域であったが、農住構想の開発計画がうまくいきませんでした。しかし広袴と真光寺のことをこのままにしておく、市街化調整区域となり、区画などがばらばらの町になる可能性がありました。そこで国土庁とも相談し、国の力を借りて区画整理をしてみようようにしました。その結果、グレイドの高い、風格のある市街化区域が出来上がりました。川崎市に面した町田側には緑を残す事も出来、理想の区画整理が出来たと思っています。湧き水を上手に利用したせせらぎの川も素晴らしいですね。



中村編集長

(中村一行・佐々木幸子・大川節子)

「広袴便り」創刊に寄せて

都市基盤整備公団 東京支社
町田開発事務所長 川島廣司

この度は、町内会報「広袴便り」創刊、誠におめでとうございます。

都市公団は広袴町北部及び隣接する真光寺町に跨るエリアで、町田都市計画事業鶴川第二土地区画整理事業を昭和62年より施行して参りました。そもそも小田急線鶴川駅周辺では昭和30年代から都市化が著しく、無秩序な市街化を未然に防止し、健全かつ良好な居住環境を有する新市街地を整備することを目的として、本事業をスタート致しました。そして、地権者の皆様をはじめ、多くの方々のご協力を得て、道路、公園、下水道等の都市基盤の整備改善を行い、宅地の利用増進を図ると共に、良好な住宅・宅地の供給を行ってきたところでございます。御存知の通り、都市庭園鶴川台という愛称のもと、現在地区内では戸建住宅の建設が最盛期であり、これから徐々に新しい住民の方々が入居され、町内会の会員数も増えていくものと思われま

す。

広袴町内会では、平成14年3月に新しく整備された広袴公園の完成に伴う「記念植樹」の実施や、同公園の多目的広場における「盆踊り大会」の開催など、これまでも活発な活動が行われておりますが、これからは広袴公園や鶴川台せせらぎ緑道など、人々が憩い集える場所をご利用頂き、より一層活発なコミュニケーション活動が展開されていきますことを期待しております。

都市公団は、美しく安全で快適なまちづくりを目指し、16年間にわたる土地区画整

理事業を推進して参りましたが、お蔭様で本年5月に無事、事業竣工を迎えることが出来ました。今後は、新しく生まれたこの街が、町内会をはじめ地域の皆様に愛着を持って育てて頂ければ幸いに存じます。期せずして、町内会報が創刊されることとなり、「広袴便り」を通じた皆様の手によるまちづくりの輪が広がり、広袴町の益々のご発展に寄与されますことを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



広袴公園、多目的広場を俯瞰した航空写真
広袴住、高橋淳氏(80)撮影、平成14年3月

創刊に寄せて

広袴町内会 会長 吉川俊雄



吉川俊雄 町内会長

会員の皆さんには益々お元気にお過ごしのことと存じます。日頃、町内会各事業につき多大なご支援、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、平成15年度町内会も既にスタートをしておりますが、再度会長として微力ではありますが就任致しました。皆様方のご支援ご鞭撻をいただき、地域発展のため、頑張りたいと思っております。よろしく御願ひ申し上げます。

町内会も実績32世帯の会員と日々新居住宅が増えていく中、新しい道路(大蔵、広袴線)の開通があり、都市開発鶴川第2土地区画整理事業の終了による町名、地番の変更も行われ、広袴3丁目、4丁目と新住所に変わって参りました。ちなみに1、2丁目につきましては平成11年3月、真光寺、広袴区画整理組合により施行され、国士館大学を1丁目、広袴中央信号までを2丁目として既に変更されております。

いろいろと地域が新しく変化しておりますと同時に町内会も新旧会員の方々はもとより役員を含め、事業の目的達成、会員相

互の親睦等々の理解がなかなか得られない面が多々あるかと思いますが、新しい町づくりのため、自分達の町は自らの手で守ることが大切かと思っております。特に近年多発している凶悪犯罪、特に交通事故に至っては広袴地区でも年々発生件数が増えております。安全第一にゆっくり一歩一歩着実に歩みながら、地域の安全、住みよい町づくり、防犯、防災、環境衛生の意識の向上を図ると共に各種団体のご協力を基に、子供から大人、お年寄りまでが安心して生きがいのある町内会に向け、運営に当たって参りたいと思っております。

この度、「広袴便り」創刊にあたり、町内会編集委員の方々並びにご協力者のお力添えをいただき発行することが出来ました。町内会、地域の情報が少しでも会員の皆さんに伝わるのが主旨であります。「広袴便り」が継続出来ますよう今後共会員皆さんのご支援をよろしくお願い申し上げます。



広袴のシンボルとして市長お手植の楠の木

平成15年度定期総会開催

平成14年度
平成15年度

事業・会計・監査報告
事業計画・予算(案)

平成15年度定期総会が4月20日午後2時より広袴町内会館において開催され、町内会長に吉川俊雄氏、副会長に森吾一氏、副会長兼会計に中村一行氏が選任されました。また委員、組長、班長について下記の新役員が就任しました。

平成14年度の事業報告・収支決算、15年度の事業計画・収支予算については14年度会長の吉川俊雄氏及び副会長兼会計の石村徳治氏より説明があり承認されました。14年度の会費収入は会員のご協力により322口の納入をいただきました。支出については274万円に留まり、これらの結果、次期繰越金は6万円増加の72万円となりました。本年度予算については会員の増加により会費納入を340口と見積り、支出も前年度予算並みの323万円としました。会費納入については会員各位のご協力をお願いするとともに、町内会活動の一層の活発化を図りたいと考えています。決算・予算の詳細については別表のとおりです。また会員の西川文二氏から町内会組織の見直しと効率化の観点から各種部会設立の提案がなされましたが総会では結論が出ず、役員会で継続審議ということになりました。

そこで4月29日に行われた役員会でこの件につき、再度議論がたたかわされ、とりあえず広報部のみ先行して設立し、町内広報誌「広袴便り」を創刊することにし、西川文二氏が広報部長、編集長は副会長兼会計の中村一行氏が就任することに決ま

した。その他の編集委員は委員・組長・班長・その他有志の会員の方々と発足することとなりました。
(中村一行)



中村一行副会長兼会計



森 吾一副会長



吉川俊雄会長

平成15年度 広袴町内会 役員名簿

役職名	氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
相談役	霧生 貞造	会計監査	姉崎 進	班長 2-B	田辺 明夫
〃	吉川 和志	〃	吉川 久雄	〃 C	倉本 崇博
会長	吉川 俊雄			〃 D	富樫 明
副会長	森 吾一	組長 1組	関 英男	〃 3-A	飯塚 洋
副会長 会計	中村 一行	〃 2組	星野 耕二	〃 C	大川 幸男
委員 1組	宮田 洋一	〃 3組	和田 典明	〃 4-A	鈴木 信
〃 2-B	河合 晶子	〃 4組	杉山 教彦	〃 5-A	吉川 英男
〃 3-B	大塚 里秀	〃 5組	平林 宣二	〃 9-A	西川 和保
〃 5-A	大塚 盈	〃 6組	吉川 正雄	〃 C	塩谷 剛
〃 6-A	熊田 道夫	〃 7組	牧山 増雄	〃 D	滝口 好美
〃 7-A	鈴木 正子	〃 8組	金子 金造	〃 10-A	大倉 ナミ子
〃 8-A	熊谷 清	〃 9組	坂田 錦一	〃 B	魚津 普世男
〃 9-A	小林 豊	〃 10組	沼田 守弘	〃 D	谷岡 克昭
〃 10-C	西川 文二				

[平成14年度 広袴町内会 会計報告書]

[平成15年度 一般会計予算案]

一般収支報告書 (自平成14年4月1日～至平成15年3月31日) (単位:円)

(自平成15年4月1日～至平成16年3月31日) (単位:円)

項目	予算	決算	増減	摘要
町内会費	1,288,000	1,312,700	24,700	322×4000+(新規加入18-24700)
防災費	307,000	315,900	8,900	307×1000+(新規加入18-8900)
市助成金	60,300	76,400	15,100	
自主防災助成金	33,930	33,930	0	
社協活動費	2,000	0	-2,000	
会館賃貸料	10,000	0	-10,000	
盆踊り	600,000	954,970	354,970	
簡保活動費	95,000	100,167	5,167	
雑収入	50,000	5,344	-44,656	寸志1件 電話 利子他
前年度繰越金	660,354	660,354	0	
計	3,106,584	3,459,765	353,181	
助成金				
消防団	170,000	170,000	0	
広楽会	30,000	30,000	0	
敬老費	20,000	20,000	0	
子供会	30,000	30,000	0	
消防後援会	30,000	30,000	0	
青少年健全育成	10,000	20,000	-10,000	
募金	120,000	120,000	0	日本 社協 赤い羽根 歳末助け合い
連合会費	13,000	13,000	0	
体育祭費	150,000	130,733	19,267	
防災費	140,930	117,469	23,461	テント1張一部
会館維持費	600,000	457,696	142,304	地代 火災共済 電話 電気 水道他
事務消耗品費	30,000	3,687	26,313	
印刷費	60,000	40,000	20,000	
雑費	30,000	5,418	24,582	
交際費	250,000	250,000	0	
総会費	80,000	59,533	20,447	
委員会費	80,000	26,336	53,664	
盆踊り	700,000	804,332	-104,332	
備品費	120,000	60,000	60,000	テント1張一部
慶弔費	80,000	69,000	11,000	慶事3件 弔い6件
予備費	362,654	286,706	75,948	消防器具置場の落成
計	3,106,584	2,743,930	362,654	
次期繰越金			715,835	貯金 556,468 現金 159,367

項目	予算	摘要
町内会費	1,360,000	
防災費	325,000	
補助・助成金		
市助成金	80,000	
自主防災補助金	35,100	
社協活動費	2,000	
簡保活動費	100,167	
会館賃貸料	5,000	
雑収入	10,000	
盆踊り	600,000	
前年度繰越金	715,835	
計	3,233,102	
助成金		
消防団	170,000	
広楽会	30,000	
敬老費	20,000	
子供会	30,000	
消防後援会	30,000	
青少年健全育成	20,000	
募金	120,000	
連合会費	13,000	鶴連 市連
体育祭費	150,000	
防災費	160,100	
運営費		
会館維持管理費	600,000	借地料 他
事務消耗費	30,000	
印刷費	60,000	
雑費	30,000	
交際費	250,000	
会議費		
総会費	80,000	
委員会費	80,000	
盆踊り	800,000	
備品費	120,000	
慶弔費	80,000	米寿祝2名
予備費	360,002	
計	3,233,102	
次年度繰越金	0	

(内訳)
町内会費 @4,000×340=1,360,000
防災費(消防団員の世帯除く) @1,000×325=325,000
市助成金 @200×340=80,000
自主防災助成金 @65×340+13,000=35,100

(別途会計) 平成15年3月31日現在 定期預金保有額
町内会定期預金 480,175円
会館予備費定期預金 139,433円

別途会計 定期預金 480,175円
会館予備費 定期預金 139,433円

上記のとおり報告致します。平成15年3月31日 会計 石村 徳治◎
監査の結果適正と認めます。平成15年4月05日 監査人 田辺 明夫◎
監査人 仲 矢 長 次◎

〈平成15年度事業計画〉

平成15年度行事日程計画

1 各種募金活動	
2 自治消防及び災害対策の推進	
3 青少年対策への協力	
4 町内各種団体の育成強化	
5 防犯活動への協力	
6 交通事故防止への活動展開	
7 環境衛生活動の推進	
8 町内会館建設への推進	
〈町内会行事予定〉	
1 防災訓練の実施	
2 盆踊り大会の実施	
3 市民運動会の参加	
4 歳の神(どんど焼き)の実施	

項目	日	月	日
1 自主防災訓練 (大震災を想定)	AM 9:30~11:00	7	27 (日)
2 盆踊り大会 (カラオケ、やきとり、やきそば)	PM 6:00~10:00	8	2 (土)
3 市総合防災訓練 (鶴川団地合同)	AM 9:00	8	31 (日)
4 市民運動会 (市立陸上競技場)	AM 9:30~16:00	10	5 (日)
5 町内会忘年会		12	(未定)
6 自主防歳末警戒 (町内の火災、盗難、犯罪を未然に防ぐ)		12	29、30 (月)(火)
7 新年初顔合わせ		1	1 (木)
8 どんど焼き (お正月飾りを子供会が集め焼く)		1	14 (水)
9 自主防災座談会 町内会新年会		1	18 (日)
10 町内会館建設		5	月~3月

自主防災訓練実施について
日時：7月27日午前9時半から11時。
場所：広袴公園、多目的広場(雨天中止)。
今回は初期消火と震度体験に重点を置きます。広袴町内会も32世帯となり、住民が急増中です。単なる防災訓練に留めず、お互い知り合うこと、交流も目的として各家庭一人はご参加を希望します。参加人数把握の為、出欠も取らせていただきますので当日はご協力をお願い致します。なお同日午後1時から盆踊りの為のやぐら建ても行いますのでお時間のある方は併せてご協力をお願い致します。
(広袴町内会 自主防災隊長 西川文二)

大蔵く広袴線開通

広袴町内会 会長 吉川俊雄

去る4月24日午前10時、都市計画道路3・4・30号線(大蔵く広袴線)の開通式が寺田市長を初め牧田助役、佐藤市議会副議長、大西市議会都市環境常任委員長、地元市議会議員、町田警察署長、町田消防署長、広袴町内会正副会長、前会長、地元消防団正副部長、広楽会会長、消防後援会会長、子供会会長、地元地権者、隣接地権者、町田建設の方々等総勢50余名が出席の中、盛大に執り行われた。

- 1. 都市計画決定 昭和44年3月4日
- 2. 業認可 平成11年7月22日
- 3. 事業内容 用地買収物件補償工事費 他総工費10億6千万円
- 4. 着工 平成13・4年度擁壁・道路施行
- 5. 事業規模 幅員16M延長334M

ついで主催者代表寺田市長ご挨拶、来賓祝辞として佐藤副議長がお祝いのお言葉を述べた後、私が、昭和39年頃都市計画道路が鶴川団地より広袴に続くという話を聞いてから約40年余、地元の方々の念願であった計画道路が立派に完成し、開通の運びとなったことを町内会の方々と喜びることができたこと、これはひとえに地元地権者の皆様のご理解ご協力が早期に得られたことと計画当時の地元緒先輩のご努力とご尽力の賜物であると感謝と御礼の挨拶を述べさせていただいた。次にご来賓の方々の紹介に移り、その後開通記念のテープカットが寺田市長、佐藤副議長、町田警察署長、

広袴町内会長として私、前会長の5名により行われた。更に開通渡り初めを出席者全員で広袴中央の信号運行い、午前11時、一



テープカット

般車の通行が開始された。この道路開通により鶴川団地、市民センター、大蔵町、芝溝街道へ抜けることが楽になり、狭い道路への進入も解消された。また歩行者に優しいバリア・フリー対応で車椅子の通学にも安心のセミフラット型歩道が採用され、安全性が図られている。街路樹にはヤマモモが植えられ、4月頃開花、夏には赤く実が熟すそう。来年が楽しみです。



郷土史の発掘と継承―屋号の考証 (第一回)

広袴には圧倒的に吉川姓、大塚姓、森姓が多いがそもそも広袴という地名が歴史の文獻に現れるのは永禄2年(1559)にまとめられた「小田原衆所領役帳」に小山田弥三郎知行として7貫850文と記されたのが初めてといわれている。

小山田氏とは平安末期に秩父から多摩郡小山田荘に移って来て小山田氏と名乗り、最初平家に仕えた後に源頼朝の拳兵後頼朝の家来となり、頼朝亡き後、北条氏に疎まれ滅ぼされている。

吉川一門に伝わる正月飾りは約1.2Mに切った真竹の根元を尖らし竹杭にしたものを約2M間隔で4本立て、そこにシキミの枝を切ってきて、こんもりとさす。このシキミをさすいわれが、鎌倉時代に遡り、戦乱の最中、武士だった先祖がシキミの蔭に隠れて敵の残党狩りの手を逃れたことに由来しているといわれていること、吉川一門が「遣鷹羽」を家紋にしていること、また

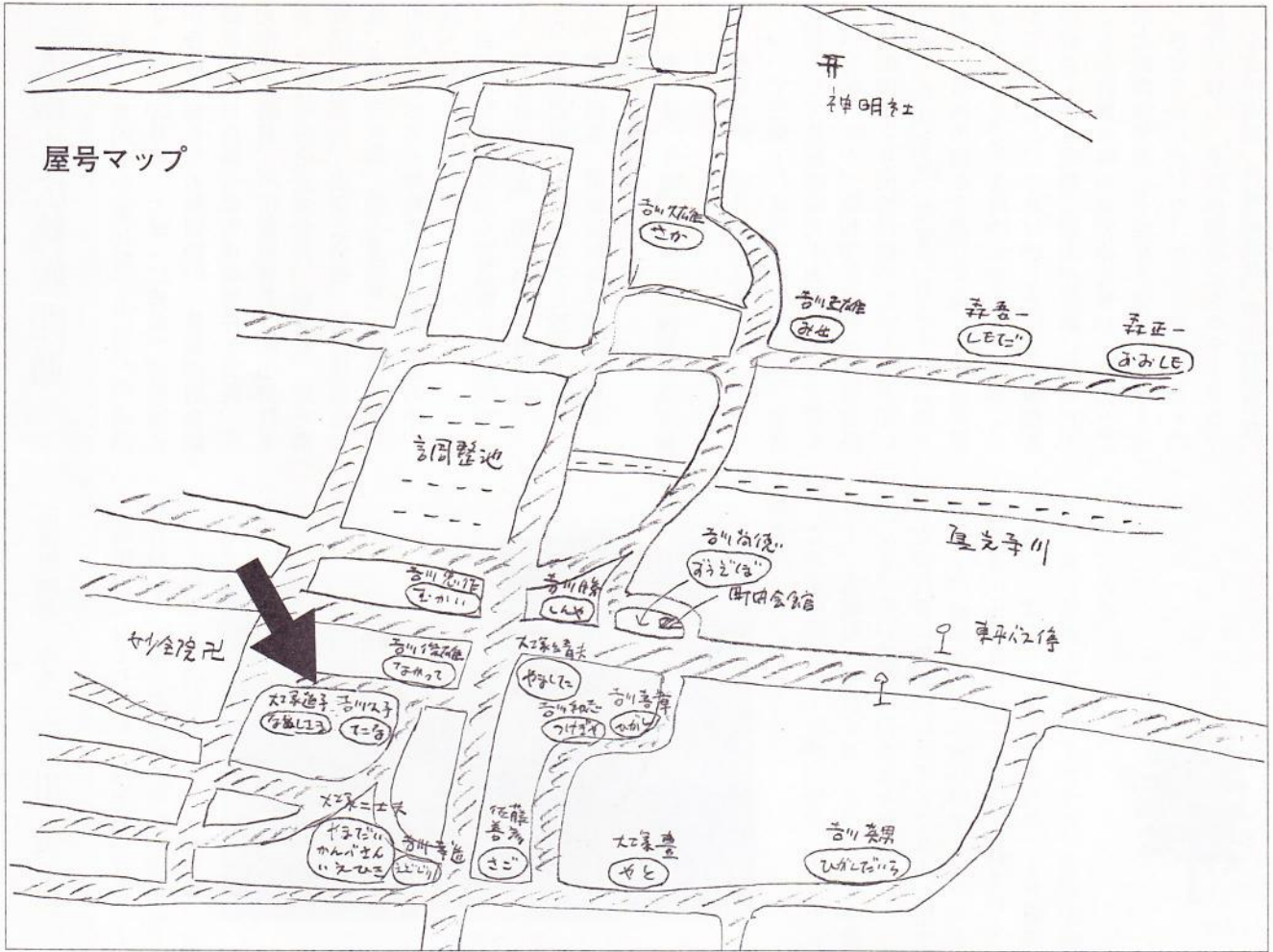
近くに鎌倉街道が存在すること等を考え合わせると、これら吉川家、大塚家、森家は鎌倉の頃から広袴に在って「いざ鎌倉」という時には小山田氏のもとに馳せ参ずるお立場のご一族ではなかったかと推測される。文政9年(1826)の「新編武蔵風土記稿」によると広袴村は民家23戸と記載されているという。それが昭和15年(1940)頃になっても27戸であったというから、14年の間に4戸しか増えていない。戦後東京からの疎開者を中心として45戸に増えたが、この戦前の27戸の内16戸が吉川家、5戸が大塚家、4戸が森家で、あと2戸が佐

藤家と石田家であったというから吉川姓、大塚姓、森姓が昔から広袴に多かったことがわかる。

というわけで、同姓の多い広袴では名字ではなく下の名前と呼び合うことが多い。そればかりでなく、それぞれの家には屋号があり、それを用いることも多い。しかし、この屋号、新しく広袴に入居された方には未知の世界である。東平のバス停の由来はそこが元々「東平」という屋号の持ち主の土地であったからであるが、そういうことも新しい方にとっては新鮮な驚きとして興味深いことと思われる。そこで広袴の古い文化に馴染んでいただく一助として屋号を取り上げ、この広袴便りの連載企画とすることとなった。

広袴にはその主なものだけで約20程の屋号がある。それを地図に落として見ると図のようになる。この中で第1回目として「なぬしさま」あるいは「ななつさま」という屋号をお持ちで旧名主であった大塚道子様をお尋ねし、お話を伺いました。実は代々広袴の名主を務められた家柄はもう1軒ある。次号で御紹介する予定であるが「みせ」という屋号をお持ちの吉川正雄様のお宅である。しかし今回は「なぬしさま」という屋号が残る大塚家を先に取材させて頂いた。

大塚家は旧宅が現在の消防団詰所裏の駐車場になつて居る処に在った。しかし道子様のご主人であった故大塚和重様が療養が必要となり、より健康的な場所を求め、昭和50年11月に現在の場所に引越された。



大塚和重氏

最後に前当主であられた大塚和重様に若干触れておきたい。和重様は昭和3年のお生まれであり、青山前々市長の時その秘書役を務められ、大下前市長の時には教育部、教育委員会に属して活躍された。しかしながら肺の病を得、療養に努められたもの

だ。従って名主様としての屋敷が在ったところはその駐車場の処であったということを感じておかねばならない。残念なことにこの引越しの時、大塚家にあった多くの古文書は親戚筋に移され、大塚家には現存していない。従って江戸時代の何時の時期に名主を務められたかということについては明確なお答えは得られなかった。しかし名主であった証拠として現在保有しておられる不動産が道路沿いの立地条件の良い処に集中していること等が挙げられるのではないかと

いうお話であった。大塚一門に伝わる興味深い風習がある。毎年2月の初午の日に行われる稲荷講で、これには大塚一門の5軒が参加される。その中で当番の家が藁でツトを作り、一方にお赤飯、もう一方に油揚げ、目刺し、米の粉で作ったマユの形の団子を入れ、お供えする。こうして大塚一門でその風習を守りつつ静かに暮らしておられる様子であった。

- 参考文献
1. 『大正・昭和を地域に生きて』吉川照正の歩んだ道』—堀江泰紹著—町田ジャーナル社
 2. 『私の体験記』—吉川泰長著—(株)アトム印刷
 3. 『町田の歴史をさぐる』—町田の歴史をさぐる編集委員会—町田市

(中村一行)



大塚家正面玄関

の残念ながら平成6年2月に65才で他界された。この和重様が多くの道子様にも語らずに逝ってしまった今、これ以上の考証はその親戚筋に移されたという古文書がいくつか整理解明されるのを待たねばならない。ただ名主としての矜持として「負の財産は持たず」というお考えを残されている。旧宅跡の駐車場が駐車場のままで今に至っているのがそれを物語っている。

諸団体から

消防団

消防団は戦後施行の消防組織法に基づき警察からの分離独立と市町村によるシビリアン・コントロールをうたい文句にして発足しています。町田市では定員を630人と定め、広袴の属する第3分団第7部では16人の団員が団務に励んでいます。

消防署が常勤職員を置いていないのに対し、消防団は平素別の生業を持っている住民の中から志願した者を市長が団員に任命する非常勤職員であるという点に違いがあります。しかし、それが非常勤のボランティア活動であるとしてもその責務は常勤の消防職員と何ら変わることは無く、不意の災害に出勤するだけでなく、定期的な各種訓練（規律、ポンプ操法、水防、機関運用、無線、応急手当等）にも参加し、知識の習得と技能の維持に努めています。この中で特に過酷なのはポンプ操法の訓練で、毎年6月末に行われる鶴川、町田市両大会に向けて5月の連休明けから2ヶ月間、週3回の割合で練習を行っています。皆生業を持つている関係で出勤前に早朝練習をせざるを得ず、5月は朝4時半、6月は朝4時から2時間に亘り訓練をしています。その結果、多くの大会で上位入賞を果たすという輝かしい団歴を誇っています。また、こうした訓練のみならず、町内会の各種行事（運動会、盆踊り、歳末警戒、どんど焼き）にも支援活動を行っています。

町内会からいただいている助成金はこうした訓練等の活動費に充当させていただき、大変感謝しております。今後共こうし

た団活動にご理解ご支援をいただくようお願い申し上げます。団員は常々募集しておりますので、皆様の中からご有志の方々のご参加をお待ちしております。

(第7部部长 岩崎一)

第7部鶴川大会で 優勝、個人賞も

6月22日に行われた第3分団ポンプ操法鶴川大会において広袴の第7部は出場9隊の中で優勝を納めた。ポンプ車が配置されて15年にして初めての快挙である。ちなみに優勝隊のメンバーは指揮者、部長岩崎一、1番員、団員吉川元直、2番員、班長佐藤登、3番員、団員大塚和一郎、4番員、班



第3分団第7部の皆様



1番員 吉川元直



2番員 佐藤 登

個人賞



左から阿久津トミ(91) 吉川貞子(90)
霧生貞造会長(82) 吉川サワ(89)

広袴町内会の町内会報(広袴便り) 創刊おめでとございます。つきましては広袴老人会のお話をさせていただきます。

最初は真光寺、広袴の2地区で1つの老人会でしたが、昭和50年4月、広袴地区だけで老人会を作り、会名を「広楽会」、真光寺地区は「真寿会」と2つの会に分かれました。

初代会長吉川義一氏他会員50名で発足。2代目大塚延一氏、3代目吉川芳雄氏、4代目吉川照正氏、5代目霧生貞造と年を重ね

消防後援会

消防団のOBを中心として組織された消防後援会があります。現役消防団団員に対する指導後援の他、町内会活動も強力に支援しています。

(中村一行)

広楽会

広袴子供会は5月現在子供の数93人、家庭数で69軒です。鶴川2小に通っている子

広袴子供会



6月の定例会に参加の会員の皆様

ねる毎に会員数も増えまして5月現在75名(広報部注:その後9組10組の方々の入会もあり、更に増加中)で御座います。会の今年度事業(行事)計画を申し上げます。

1. 町内会行事に参加、協力
2. 社会福祉活動
3. 各種団体との交流・募金活動
4. 健康増進のためのスポーツ(ゲートボール、輪投げ等)
5. 会長会、役員会、定例会等

年会費2千円。会員皆様は元気に仲良く頑張っております。今後共今迄同様、ご支援助ご協力をお願い申し上げます。

(会長 霧生貞造)

供は入会することになっていきます。学校から地区活動費としてのご援助、また町内会からもご援助を頂いていますが、主に皆様にご協力いただいている資源回収から得た資金で運営されています。

昨年1年間を振り返ってみますと、まず4月に5日間の集団登校。7月に夏のお楽しみ会としてひなた村・夜の部に行き、カレー作り、シユロの葉を使った馬やバッタのしおり作り、キャンプファイアー、花火等をして楽しみました。8月は町内会の盆踊りとラジオ体操。盆踊りはクジを出店し、カラオケにも参加しました。ラジオ体操は昨年好評だったため、今年も行いますので皆様ご参加下さい。10月は運動会、神明社の子供神輿と山車をやらせて頂きました。これは暫くなかったものを昨年度からまた始めたということですが、子供達には良い経験と思いい出になったと思います。年が明けて、どんど焼き、子供会としては各家庭を回り、お飾りを集めます。毎年たくさんの子供が参加しています。3月は6年生と新1年生の歓迎会、人数が増えましたので鶴川2小の体育館をお借りして、色々なゲーム等を行いました。以上が子供会の1年の行事です。

(会長 川貝暁子)

広袴公園、鶴川台 せせらぎ緑道を守る会

昨年11月より毎月第1土曜日に広袴公園と鶴川台せせらぎ緑道の清掃を行っています。広袴町や真光寺3丁目の近隣住民で現

在の会員数は20名(5月現在)プラス広楽会のメンバーです。キツカケは紙くずやビニール袋、犬の糞などでの汚れが目立ち、9組の西川文二氏が皆に呼びかけて始めたものです。

会を組織したのは町田市の公園緑地課に登録するためです。どなたでも大歓迎です。毎月第1土曜日午前8時半に広袴公園の多目的広場にお出で下さい。雨天の場合は翌日の日曜日です。ゴミ拾い、雑草除去、池・せせらぎの中の清掃を1時間程度行っています。鎌、火バサミ、軍手など清掃用具はご持参願います。

公団より市に移管された昨年11月より開始、5月まで7回行いましたが、毎回30、40名の方が参加され、小中学生も加わり有難いことです。

お問い合わせは

広袴3-24-11 山本隆治

電話・FAX 736-0214

(会長 山本隆治)



せせらぎの風景

広袴公園の 花と緑を育てる会

「木を見て森を見ない」という諺があります。

広袴という郷に来て1年半が過ぎました。来る前から想像しましたとおり北から見て扇形の袴の広がり地形にして、緑と水に恵まれた長閑で豊かな里だと思いましたが、或る日、広袴公園の花壇の辺で隣町の高一生男女4人と四方山話をしました。此処って池と花と緑があつて何でも話せる環境だとのことで小1時間俄か談話となり、小さな花壇も非常に感じがいいと誉められました。青少年の事と言えば、去る5月21日、広報部の市長インタビューに同席させていただく機会があり、その時、市長さんは「せせらぎ緑道」・「花と緑を育てる会」に小中高生が参加していることをとても喜んで下さり、増々推進されるよう励まされました。

住まいが集まって町となりますが、ともすると周辺環境を見ないことがあります。「小さな事でも出来ることはやろう！」が「育てる会」の目標です。市が花壇を作つて下さいました。公団も北側の丘の森を残して下さいました。この森は市のご助力に依るものです。自然と社会の調和は古来より永遠のテーマです。周辺社会において、限られた自然を生かす事、それが「花と緑を育てる会」(会員6月現在21名)です。

「せせらぎ緑道」の活動が波及しまして花壇が作られました。そこに花と緑を育てる輪を掛け、皆様のご協力を得て発展させましょう。そして「家を見て周辺環境を整えることです」。広袴の花の好きな人集まれ、

お問い合わせは 広袴3-9-3 大嶋孝之
電話・FAX 734-9014 (会長 大嶋孝之)



花壇に植えられたインパチェンス

真光寺駐在所

広袴に新しい交番が欲しい!

真光寺交番の嘉茂さんは今真光寺地区と広袴地区併せて約4,000世帯を担当し、パトロールしています。しかし一人で隅々まで目を行き届かせるのは難しく、広袴にも新しい駐在所が欲しいという私共の考え方には賛同していただいています。

交通事故防止や防犯については家庭と地域でも目配りしていただくことが大切で、そのために日頃の教育や訓練が必要となります。そこで皆で共に学習する機会を持つ為に、嘉茂さんに講師になっていただいで防犯と交通事故防止についてお話を伺うこととしました。来る10月にこの学習会を予定し、町内会長とも相談の上実施したいと思います。具体的な日程が確定しましたら別途御連絡いたします。(西川文二)

この町にこんな人 (第一回)

馬を折らせたら日本一

組立て折り紙の

高橋四郎さん (81)

広袴3 | 25 | 10



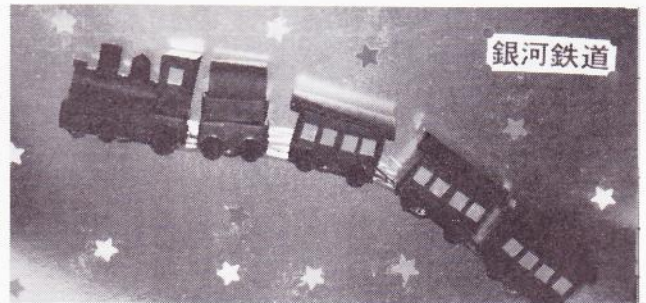
自宅で製作中

「幼い頃、兄から習い覚えた折り紙が軍艦でした。奴さんの袴折から作る小さな舟でした。歳を経て大きな紙で作ることを思いつき、工夫を重ね、戦艦ができました。同時に帆船も生まれました。何枚かを合わせ、糊も使うので(組立て折り紙)と、命名しました。」と高橋さんは組立て折り紙の由来を説明してくださいました。鶴巻にお住まいの頃は、(よいまち草)という鶴巻の新聞の表紙が何回か高橋さんの作品の写真で飾られました。昨年は、真光寺中学校で、国際交流の一環として外国の方々に

も折り紙をご披露なさいました。今年5月には、横須賀での帆船フェスティバルに様々な色の帆船を出品なさいました。今年7月29日から8月10日まで、町田中央図書館にて個展が開かれます。題して(組立て折り紙)虹色の帆船パレードと折り紙歳時記)です。毎年1月中旬から2月中旬まで小田原城内の郷土資料館で開かれる千支展にも作品を出品しておられます。また現在は神奈川県青少年育成委員としてもご活躍です。広袴には平成9年に引越していらっしゃいました。

多方面でご活躍の高橋さんは大正10年のお生まれです。昭和18年から21年までは南方のラバウルの軍隊に駐軍していらっしゃいました。軍隊にいらした時、戦艦大和を作りたいと思われたそうです。今、軍艦を作るのは、戦死なさった方々への墓標のようなものだと。

折り紙を本格的に研究始めたのは30代の頃だそうです。組み立て折り紙の原点はやはり奴さんや鶴にあるといいます。紙の材質は普通の折り紙から、ラシャ紙、フィルムオーロラ紙に至るまでさまざまです。40年代後半、長方形の折り方を考案してから作品に巾がで、東京都児童会館、川崎市産業文化会館他で開かれる折紙教室で講師を務められました。長方形の方が無限大にその形を変えられるということです。作品の主要な部分は折り紙だけで最初に折ります。いっさい糊を使わないと言うやり方にはこだわらず、飾りや、その他の付け足す部分には糊をつかうこともあります。そのほうが作品に臨場感が出るということです。作品の題材はあらゆることに及びます



が、鳥獣戯画に原点があるとか。千支のすべ、神馬、寒立馬、祝い駒などの馬達、竜、カエル、狸、ねずみ、そして戦艦や帆船です。素材の紙に惚れ込んで作ったとおっしゃるパステルカラーの狸、カエル、ねずみたちの姿です。巡礼のお遍路さんたちの行列も印象的でした。ひとつとして同じものはなくそれぞれがそれぞれ別の形、表情をしている事には驚くばかりでした。銀河鉄道、クリスマススのトナカイなど夢を運んでくれる壁掛け式の作品。また虎がナイキの帽子をかぶってゴルフをしているまさにタイガーウッズなどの風刺作品も多々あります。散歩の途中で見かける一輪車やスケートボードに夢中になる子供達の姿、テレビの中、四季折々に触れることなどすべてが題材になるとのことです。

カエルや犬を折る時には、童謡を歌いな

がら、カエル人間の気持ちになると表情がだしやすいとか。軍艦マーチをうたいながらの戦艦大和。日本昔話の音楽を歌いながらその作品を並べていく、そうした気持ち指先を通して作品に伝わっていくとおっしゃいます。

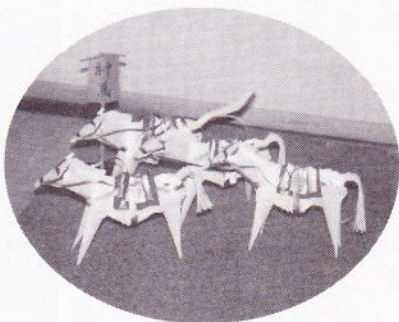
取材をした一人が、ある日小田急線の中で、見かけた光景です。暑いのか泣き止まない子供を横に居る母親がなだめることすらせずに座っていました。ちょうどそこにいらした老人の方が、小田急デパートの紙でなにするのを見かけ、ほっとする思いをしたそうです。今思うと、その老人がまさに高橋さんだったのです。

いろいろなところで、折り紙を教えてくださいたいという高橋さんのお言葉の中に、心に残るものがありました。

「折り紙は本来、話をしながら、親が子供達に伝えていくものなのです。親が子供達に伝えていくものなのです。親が子供達に伝えていくものなのです。」

たくさんさんの夢を私達に運んでくれる折り紙でした。

(佐々木幸子・滝口博子)



祝い駒

広袴のお店紹介 「パーリーブルー」

清楚な輝きを放つ真珠をイメージしたパーリーと誰もが好きな言葉ブルー。それが東平バス停前に登場した「パーリーブルー」です。音楽プロデューサーを手懸ける御主人とパティシエである清楚で美しい奥様のハーモニイが奏でるフランス菓子とランチのカフェです。

工場生産の物とは一味違う繊細なケーキが並んでいます。ただ人目を引くように生クリームや果物で飾り立てたケーキではありません。センスのよいシンプルな色合い、きめ細やかな食感ほきつと満足して頂けます。暖かい季節にはマドレーヌの台で食感を軽くした苺のタルト。パニラビーンズとラム酒の効いたシニークリーム。ジャガイモのクリームを挟み込んだボンム・ド・テール。一つ一つにパティシエの日々の研究が感じられます。冷菓は冷やしたお皿と



オーナーの古行ご夫妻 (広袴町522-9、TEL737-7225)

フォークでサーブされる心遣いです。パースデーケーキやウエディングケーキ、季節の焼き菓子も注文できます。

ランチはスープ、サラダ、リゾット、ピッツァ、デザートと飲み物といったセットの月替りメニューで楽しむ事が出来ます。但しランチは前日のお昼までに予約が必要となります。

ガーデニングの趣味もお持ちの奥様はご主人とカフェのエントランス周りや庭も素敵な雰囲気を作り上げていらつしやいます。ペットを連れて行くことも出来るように、庭にペットのつなぎ棒が用意されています。

緑豊かな広袴の住宅街に登場しましたカフェ「パーリーブルー」へお散歩の途中にちよつと立ち寄ってケーキとお茶のひとときはいかがでしょうか。(佐々木幸子)



庭の一隅に

広袴町内会に 入会しませんか

広袴町内会は町内会費(1世帯)4,000円、防災費(1世帯)1,000円で一年間を運営しています。6月8日現在会員は32世帯と成りました。

今、広袴3丁目4丁目には新しい家づくりが盛んです。新しい方達が入居してこられ、広袴の新旧の住民の心を結ぶ役目として町内会活動は益々必要ではないでしょうか。広袴に住んで良かったとの声がよく聞こえ、かわいい子供達も仲々と遊べる環境作りを目指していきたいと思っています。

新規加入については役員とその他スタッフが各戸を直接お伺いしお願いしますので御理解下さり、御加入して下さいることを重ねてお願い申し上げます。

広袴に郵便ポスト設置

広袴中央交差点近く、コンビニのスリーエフ広袴店の店頭にこの度郵便ポストが新設され便利になりました。どうぞご利用下さい。



郵便ポスト

編集後記

2003年夏季、創刊号の広袴便りをお届け致します。

「松明を持って進む」という言葉があります。何事をなすにしろ、志を高く持った人が絶えず暗闇の先頭を歩んでおれば後進の人々も安心して付いて行くことが出来、夢と希望も持て、やがてそれが太い潮流となるというわけでありますが、今回創刊の「広袴便り」は、広袴を素晴らしい町内にしたい、その為に新しい住人がどんどん増えてくるこの時期に町内会を大きく取りまとめ、新旧の人々の交流を深め、広袴の歴史と文化を伝えて行きたい。その為には広報活動が松明にならねば、という熱い想いが原動力となつています。その理想実現に向かってこの創刊号は一步を踏み出しました。始めたからにはその理想を持ち続け、継続しなければなりません。その為には町内会の皆様の絶大なご協力、ご支援が必要であります。

色々行き届かない面もあらうかと思いますが、そこは大方のご意見とご叱正を伺い、次号以降より良い紙面作りを目指したいと考えております。(中村)

次号は平成16年1月発行の予定です。

発行日 平成15年7月10日
 発行所 東京都町田市広袴町町内会
 発行人 吉川俊雄
 編集人 西川文二 中村一行 飯塚明子
 大川節子 熊田道夫 佐々木幸子
 坂本信弘 滝口博子 高橋 真
 高橋憲明 竹野義明 谷岡克昭
 長谷川雅生 (写真・鈴木正子)
 印刷 (株)サン・メールサービス